

令和
3年度



羽ばたく力を、
子ども時代に

杉並区立

井荻小学校



自然から学ぶ

ぼくらの学校はビオトープの中にある

生き物たちの生態系がはぐくまれる場所、ビオトープ。
善福寺の自然に包まれた井荻小は、まさにビオトープの中にある学校です。
そのすばらしさを知るだけでなく、問題点とも向き合うのが井荻小の環境教育。
「ふるさとから学び未来を創る」子を育てています。

井荻小の環境教育の2つの柱

1 野鳥観察

緑の木々と豊富な水。善福寺の自然を求めて飛来する野鳥は多彩です。井荻小では、平成16年度から授業の一環として野鳥の観察をおこなってきました。野鳥の種類や生態に詳しくなるだけでなく、自然環境を考えるきっかけになっています。



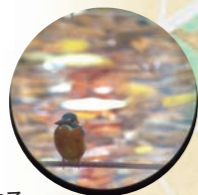
先生は「すぎなみ環境ネットワーク」のみなさん。



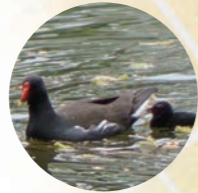
井荻小オリジナルの野鳥観察ノート。表紙は図鑑に。



高倍率の双眼鏡で、遠くの鳥もすぐ近くにいるみたい!



望遠鏡の中のカワセミ



バン親子



東京女子大キャンパス

広い敷地に豊かな緑があふれる東京女子大キャンパス。大学のご協力を得て、低学年の子どもたちが自然観察や昆虫かんさつをしています。つかまえた昆虫はかんさつ後、自然にかえしています。

東京女子大学



井荻小は「都内愛鳥モデル校」の指定校です

愛鳥モデル校 東京都

東京都は、野鳥の観察や保護、環境保全活動に力を入れている学校を「愛鳥モデル校」として指定しています。

認定マークと、南門に掲示されているプレート。

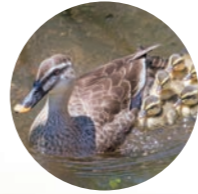
※このページで紹介しています野鳥の写真はすべて、善福寺公園周辺で撮影されたものです。撮影者：学校支援本部 土屋一平

善福寺公園

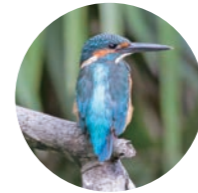
1、2年生はここで自然とふれあい、3年生以上は野鳥観察会をおこないます。野鳥の名前を知るだけでなく、「植物があり虫がいるから鳥が集まる」という生物のかかわりも学びます。



コゲラ



カルガモ



カワセミ



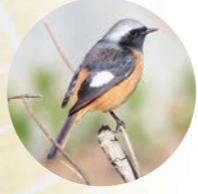
アオサギ

善福寺川

学校の敷地内を流れる善福寺川。雨の日は増水して下水が川に流れ込むことがあるので、「雨が降ったら洗濯しないで」と呼びかけています。



メジロ



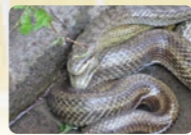
ジョウビタキ

井荻小学校の校庭

校庭だからとあなどってはいけません。珍しい鳥が飛来し、木々は季節ごとに実をつけ、ときにはヘビや巨大グモが顔を出すことも。

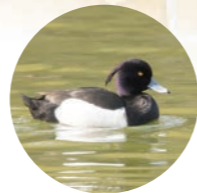


プールで育ったヤゴを救出して飼育します。



いおぎ田んぼ

水田とビオトープ、2つの役割を果たす「いおぎ田んぼ」です。雨水を集め、利用するための雨葉も設置され、一年中生き物の息吹を感じられる場所となりました。



キンクロハジロ

井荻小の子どもたちが区を動かした

平成26年、「善福寺川の上池と下池をつなぐ水路を、水辺で遊べる小川にしたい」と、当時の6年生が設計図を杉並区長に手渡しました。それは区の総合計画に位置付けられ、平成30年7月、ついに「善福寺川親水施設」として完成、オープンしました。



2 善福寺川調査

学校の中を善福寺川が流れる井荻小。コンクリートに囲まれた都会の川ですが、実は目をみはるほど多彩な生物が棲んでいるのです。3年生～6年生が川の中に入って水質調査や清掃活動をしています。放課後には6年生がボランティアで遊歩道のごみ拾い。その功績が認められ、毎年「杉並区青少年善行表彰」を受けています。



令和3年、本校の善福寺川学習のためのノートができあがりました。



学年が上がると活動内容も変わり、川についての学びが深まります。



CODとphの調査



川での清掃活動。川で拾ったゴミは数キロにも、ゴミの種類も調査。

野川公園でも川の調査



5年生は野川公園で環境調査。善福寺川と比較しながら未来の川について考えます。

どの子も伸びる

特別支援教育だけ「特別」じゃない

特別支援教育は「特別な支援を必要とする子のための教育」と思われがちです。

でも実際にやってみると、すべての子にとって「あると便利」「わかりやすい」と感じる方法だと気がつきました。

学校と家庭が同じルールで子どもを支え、どの子も伸びる教育を実践します。

井荻小の 特別支援教育の 3つの柱

1 井荻スタンダード 約束ごとをそろえよう!

どの学年でもどのクラスでも、約束ごとが同じである方が不安や戸惑いが少なくてすみます。学校生活の基本となるルール「井荻スタンダード」は、学年が上がっても、担任が変わってもずっと同じ。安心して学習に取り組みます。

くつ箱



机の中



ロッカー



座る姿勢

ピン・ピタ・ゲー





2 環境スタンダード 集中できる教室づくり

黒板のまわりに「クラス目標」などをにぎやかに掲げる学校は多いですが、井荻小はちがいます。教室全面には本当に必要なものだけを残し、集中して授業に向かえる環境づくりをしています。全学年・全クラス、統一です。



教室の前面

授業に集中できるよう、黒板のまわりは常にスッキリ。

掲示板上に貼るものは、どのクラスでも決まった位置に。



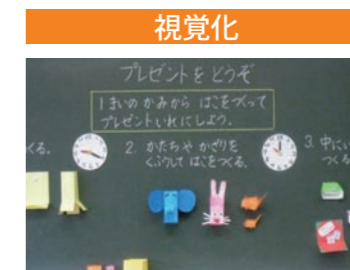
横一列にスッキリ並んだフック。かけやすく、ストレスもなし。



ギイギイと音が出ないように、つくえといすの脚には専用キャップを装着。

3 授業スタンダード 全員参加の授業の工夫

一斉授業では集中力が続きにくい子、先生の言葉が耳に届きにくい子もいます。そんな子のために工夫をしたら、どの子にもわかりやすい授業になりました。



視覚化

学習の内容、作業の時間などを、文字や時計などで「見える」化します。



体験的活動

実物を見せたり、実際に作ったりすることで興味を引き出します。



学び合い

ペアタイム
2人1組で教え合うことで、小さな疑問を解消します。



グループタイム
少人数集団で役割を果たし、積極的に授業参加を。

こんなときは...

ルールが守れない! 忘れ物が多い!

叱ったり、罰を与えたりしても根本的な解決にはなりません。原因は何か、どうすればできるようになるのかを、子どもと一っしょに話し合うことが必要です。それを実行してみ、できたらほめ、できなければもう一度話し合います。学校でも家庭でも、時間をかけて同じ視線で取り組みます。

学び残しや遅れがあって 一斉授業についていけない。

学習支援教員がついて授業中のサポートをしたり、個別指導を受けるなどの対策をします。「どの子どもにどんな配慮をすべきか」は、校内委員会で検討し、決定します。

友だちとのつきあい方が むずかしい

コミュニケーションの力や表現力を学ぶ「いおぎ教室」が開級しました。保護者と学級担任、指導教員を結ぶ専門委員も勤務しています。教育委員会に申請を出して利用がきまります。まずは専門委員、校内委員会にご相談を。



いおぎ教室

校内委員会とは?

校長、副校長、特別支援教育コーディネーター(担任経験のある教員、養護教諭の3名)で組織され、困っている子だけでなく、困っている保護者や教員の支援についても相談します。

地域の力

子どもが真ん中、大人はつながり輪になろう

井荻小には、常識を超える学校支援本部があります。その名も「いおぎ丸」。
エネルギーな大人たちが「子どものためにやってあげたい」と、
さまざまな活動をしています。
子どもを中心に、井荻の人たちが結びつく場にもなっています。



学校支援本部事務局主催のバザーは毎年大盛況。売り上げは活動資金となります。



いおぎ丸応援バザーではごみを減らす川を汚さない「ディッシュリユース」体験コーナーもあります。

3 通称「のら部」です 環境部

花壇の手入れはもちろんのこと、近隣の人にも人気の良質な腐葉土もつくっています。井荻小は、植物の宝庫でもあるのです。



肥料をまいたり、伸びた葉をカットしたり、いおぎの芝は輝いています。



落ち葉を集めて踏み踏み。栄養たっぷりの腐葉土づくりです。

1 授業のサポート 学習支援部

体験活動や特別授業の講師(ゲストティーチャー)を招きます。野鳥観察会や川の調査もそのひとつです。



善福寺川の調査。学校支援本部が学校に働きかけてスタートしました。



年1回の観望会を支援。月を観測した後は月見団子。



校舎壁面を使って読み聞かせ。



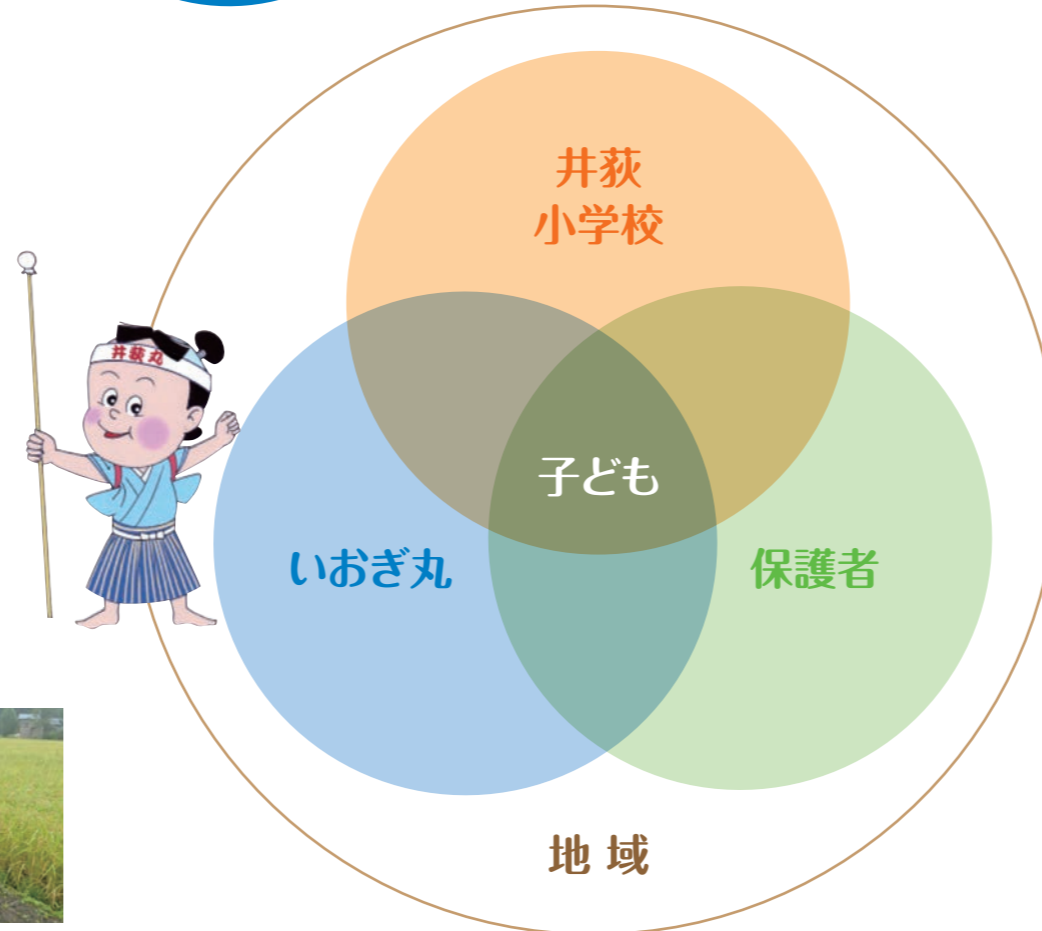
東京でも自然のホタルを観察にフィールドトリップ。(いおぎ自然体験)



放課後には「トトロの教室」で国語と算数の復習教室を実施(1~3年生)



小千谷に稲刈りに行こう! 田んぼの角の稲を刈ってコンバインが入るよう援農。(いおぎ自然体験隊)



4 読書体験を支える 図書部

本を愛するメンバーが集まって、本の貸し出し、図書修理、本の展示や読み聞かせを行います。

1か月に1回、各教室に一人ずつ入って読み聞かせ。本は各自選んでいます。

壊れた本を丁寧に修理する図書ボランティア。



入りやすい図書館にしたいと、飾りつけの工夫も。

2 子どもを見守る 健全育成部

朝あそび、おやじの会、いおぎ土曜クラブ、安全パトロール隊……、校庭にそびえるメタセコイヤのように子どもたちを見守ります。



おやじの会の親子スポーツ大会。ほかにも「水鉄砲大会」「まっくらす(防災キャンプ)」を実施。



「いおぎ土曜クラブ」はなんと56講座も! 写真上:みそづくり。右上:おこと教室。



晴れていれば、毎朝校庭で遊べます! 朝7時40分から健全育成部が見守ります。

5 「いおぎ丸だより」発行 広報部

膨大ないおぎ丸の活動を、「いおぎ丸だより」の形で伝えていきます。ホームページにも情報をアップ。



いおぎ丸だよりは年に1回発行。活動が多すぎて載せきれません!

学校図書館が調べ学習をサポート

野鳥観察や川の調査をはじめ、調べ学習がさかんな井荻小。6年間の調べ学習の成果は一冊のファイルにすべてまとめています。どんな課題を設定したのか、それをどのように調べ、まとめたかを積み上げることは、大きな価値があります。その成果を振り返り、子ども達が自ら考えるようになるのです。学び方を学ぶ、それが調べる学習の目的です。



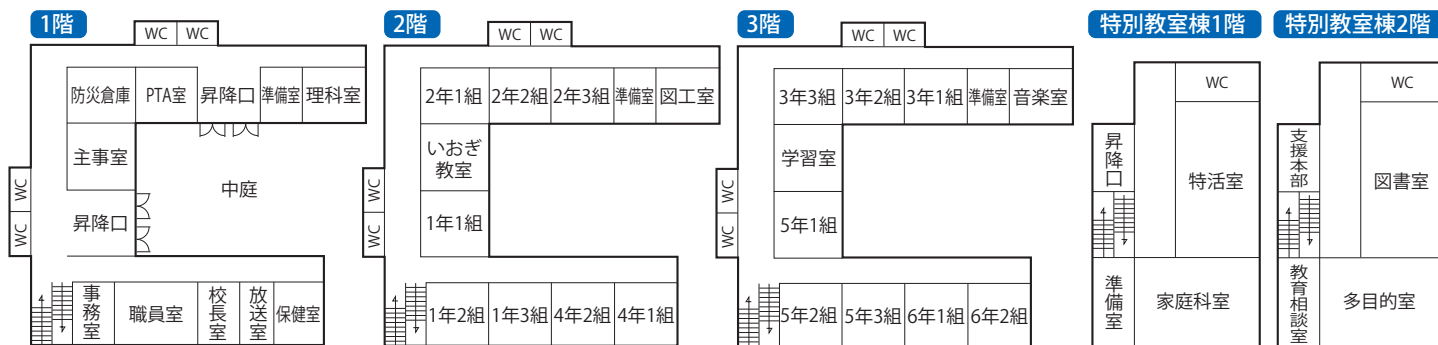
校歌

作詞 並木 彌七郎
作曲 浦 広海

一 みどりに映ゆる
学び舎は
誇りも高く輝けり
希望に燃ゆる
よろこびを
共に歌わん
ああ井荻

二 ゆかりも深き
善福の
清らに湧ける
流れあり
富士の高嶺の
理想もて
共にたたえん
ああ井荻

教室配置図(令和3年)



中庭に備え付けられた鳥の巣箱。「鳥の学校」ならではの風景。



井荻小学校の校舎は、中庭があり、児童の楽しそうな声が響いています。



平成29年4月に校庭の東側が一部芝生になり、休み時には裸足で芝生を楽しんでいます。

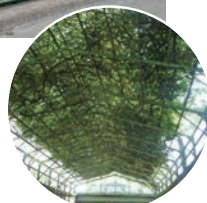
南門を入ってすぐ右がわ、「いおぎ田んぼです」。チョウチョやトンボが集まり、稲穂がおどるやすらぎの空間です。



雨水も直接川に流さず有効利用。子供たちが植物を育てるのにつかいます。



井荻小学校の一番の特長は、校庭の中を流れる善福寺川。藤棚におおわれて、春には薄紫のきれいな花を咲かせます。



川から見上げた藤棚



校庭には、カラフルな築山が鎮座。



杉並区立 井荻小学校
〒167-0041 東京都杉並区善福寺1丁目10番19号
TEL.03-3390-3141 FAX.03-3390-4829
<http://www.suginami-school.ed.jp/iogishou/>

- JR中央線西荻窪駅より→徒歩13分
- JR荻窪駅よりバス→桃井4丁目下車5分
- JR吉祥寺駅よりバス→地蔵坂・荻窪中学校下車1分
- 西武新宿線武蔵関駅・上石神井駅よりバス→井荻小学校前下車1分

※令和3年度は感染症対策のため、例年のような活動が行なえません。写真は昨年度以前の様子です。